

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2016年3月号>

108号 2016.03.01 配信

東日本大震災から5年を迎えようとしています。被災地には復興の兆しがみられてきましたが、生まれ、生活した故郷を離れざるをえなかった方々、いまだ仮設住宅暮らしをつづける方々が数多くおられます。被害にあわれた方々が心安らかに過ごせるよう、一日も早い復興を願うばかりです。

3月11日には犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りしたいと思います。

3月16日は卒業式です。昭和の若人が旅立つ季節になりました。

弥生の暖かな陽射しに包まれて卒業生たちは、厳粛なうちにも華やいだ雰囲気の中かに式を終え、社会への一歩を踏み出していきます。

卒業は「業(ぎょう)を卒(お)える」ことですが、大学だけが学びの場ではありません。家庭、職場そして生涯かかわる社会など学ぶ場はいたるところにあります。卒業は「始業」ともいえるとうかがったことがあります。わたくしたちは未だその学びの途上にあることを心に留めたいと思います。卒業式の後、光葉同窓会入会式を行います。

前途

小学一年から

今日の今日まで十六年

よくも励んで来たものだ。

日ごと月ごと

ひたむきに

学びにまなび来て。

いつもびちびち

元気よく

試験の来る日をまちかまへ。

四年かかった卒論も

九百六十四枚

天にも昇るような気持。

そしてとうとう

卒業だ

天下晴れての一人前。

十六年みがきにみがく

学、識、徳の三拍子

そろへて進もう人生を。

高い文化の灯をかかげ

この世の暗を

はてのはてまで照らそうぞ。

人見東明 詩集『学園の歌』より

■ 同窓会だより

●2月13日(土)光葉ワーキング10周年記念「葉っぱの集い」を開催しました。

本会は、働く同窓生の情報交換と相互支援を目的に、「光葉ワーキングクラブ」として2006年に発足しました。当初より参加されております横井会長から「今後は皆様がネットワークを大きく広げ、10年先を見据えて工夫を重ねながら発展させてほしい。」と挨拶がありました。各担当者から2015年度活動報告、2016年度活動計画が報告され、ネットワーク立ち上げにご尽力された安西顧問からお祝いの言葉をいただきました。改めてこの会の継続が、多くの参加者と会の運営を支えた同窓生の協働作業の賜物であることを痛感しました。

懇親会后、「みんなで踊ろう」と題したミニセミナーを開催しました。講師には、現在、毎日新聞やパルコカルチャーセンターにてハワイの文化講座を担当。横浜、渋谷などでフラ(hula)教室を主宰し活躍中の並木ユリ子氏(1992年 生活美学科卒)をお招きしました、フラは、重要な表現手段であり、一つひとつの手の動きで物語を構成しているという解説と実演は、新鮮な体験でした。

■ 学園だより

- 3月26日（土）第1回オープンキャンパス（10：00～14：00）

☆推薦入試をお考えの方は、是非ご参加ください。

- 早川書房と昭和女子大学の学生が共同で制作した小説レーベル第5弾

リンゼイ・J・パー マー著『スキャンダラス—女たちの編集部—』が2月24日発刊

■ 広げよう光の葉

澁谷里美さん

1956年 短期大学部食物科卒

「旭日双光章」を受賞して

永年にわたり食を通して県民の健康増進活動の発展に尽力した功績により、菊花薫る11月3日、「旭日双光章」を賜りました。

栄養士会員として60年あまり、今でもNPO法人活気会食育部会を立ち上げ活動しています。

昭和29年高校卒業当時は、食糧難でご飯粒はわずかに入った芋飯、卵や魚は正月に並び皆やせ細っていた時代ですから栄養士になろうと思ひ、東京にも憧れ地方で受験できる本学を志望しました。

しかし父親は戦死し、母親1人で3人の子どもを育てているのに大学まで進学するのは無理ではないか？しかし母親は女性も大学で勉強して自立することだといってくれました。

入学時に人見圓吉先生の言葉で「世の光となれ」「一流のものに接しなさい」といわれたことが脳裏に刻まれました。

卒業と同時に郷土佐賀で県職員となり保健所、県庁、教育庁に20年余り勤め、その後養成施設では管理栄養士の養成に当たりました。保健所では当時食糧難を解消するには栄養の知識を普及し、飢餓対策に力を入れるには県下全域に栄養教室を開き地区組織を育てることでした。それが今でも根付き、全市町村に食生活改善推進員（ヘルスマイト）として現在でも続いています。

教育庁では学校栄養職員の身分を栄養教諭制度へと進めることができました。学校給食のメニューは「パン・ミルク・おかず」が主流でしたが、余剰米を活用するようになり、昭和40年代より全国に先がけ県産米を活用し消費拡大につなげました。食料が豊富になり経済成長と共に生活習慣病予防が急務となり、それに地産地消を推進する動きに変わってきたのです。

平成15年より他県に先がけ「佐賀発食ではぐくむ生きる力」の冊子を作成し、全国に発信しました。

現在では保育園児、生徒、一般の方々に本県特産の「茶（嬉野茶）・菓子（創作菓子さがほのかいちごの香り）・器（有田焼）」をマッチングさせた和の伝統文化を広める活動をしています。

その間佐賀県栄養士会理事、副会長、会長として会の発展を願って歩いてきました。第38回日本栄養改善学会の開催、保健文化賞も受賞することができました。これも栄養士会員、そして関係者のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

これからも人見先生の言葉を胸に、少しでも世の中のお役に立てればと考えています。

End